

学ぶ&感じる みんなのSDGs

“あつまれ「だてな活動」” 開催報告



2月14日、伊達市市民活動支援センターは“あつまれ「だてな活動」～SDGsでつながりが見えてくる”を開催しました。当日は、NPO法人や任意団体・個人、地域自治組織や市議会など、参加者、関係者合わせて約50名が顔を合わせ、有意義なひと時を共にすることができました。

前半は、滋賀大学特任教授 荒井壽夫先生に「SDGsとまちづくり」を演題に講演いただきました。世界規模の課題を前に、私たちが手がけられる取り組みとして、地域資源の循環促進や、ジェンダー間の格差解消の重要性等が説かれました。また学校法人保原シャローム学園理事長 海老原嗣さんは、こども園におけるSDGsの取り組みについて、身近な事例として紹介くださいました。



大きく広がる課題を、我がごととしてとらえ、まずは自分たちのできることから始めてみる。私たちそれぞれが日々の暮らしの中に取り組みのきっかけを見出し、続けて

いくことが何よりも大切であるということが、お二人からの共通するメッセージであったと思います。

後半は参加者同士が交流するセッションとなり、市民活動に関する興味、関心を軸に活発な対話と情報交換が図られました。会話は弾み、盛会のうちに終了しましたが、会場アンケートでは「もっと話したかった」「時間が足りない」といった声が多く寄せられました。「だてな活動」の横のつながりを作り、育んでいく必要性を改めて感じさせられました。



それぞれが、それぞれの関心に基づき、それぞれ違う活動をしているようであっても、SDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」に照らせば、私たちの向かう先は同じであるといえます。今回初めて開催した“あつまれ「だてな活動」”ですが、市民活動に関心のある皆さん同士が顔を合わせて交流をはかる機会を、今後とも積極的に設けていきたいと考えています。

Check! オプチャ だてな活動

ヒト、モノ・コトをつなげよう!

ここから参加!



伊達市市民活動支援センターは、市内で活動する皆さん同士のやり取りの活性化を目的に、チャットルーム「あつまれ!だてな活動」を開設しました(LINE オープンチャット)。情報と知恵をつなげて活動にいかしましょう。

- ◆ どなたでも参加できます(LINEアプリを利用)。
- ◆ 参加者同士でLINEの友達登録をする必要はありません。
- ◆ 通常のLINEの登録名とは別の名前を使うことができます。
- ◆ 発言せず、他の人のやり取りを見ているだけでもOK。

サロンで作ったお手玉を差し上げます。

〇日に××でごみ拾いアクションをします。参加自由。

イベントで用意した紙皿、紙コップが余っています。

育成会で餅つきしたい。誰にどうやって頼めばいい?

2024年1月に運用を開始して、現在は50名ほどのメンバーが気になることをコメントしたり、地域の活動やイベントを紹介するなどして情報共有をはかっています。支援センターもおすすめの助成金情報やイベント案内を投稿しています。ぜひ参加して仲間になってください。

伊達市市民活動支援センター

〒960-0756 福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
月～金曜日(年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
※木曜日は午後7時00分まで



TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp http://www.date-civilsupport.jp/
伊達市市民活動支援センターNEWSのバックナンバーはHPからごらんいただけます。



だてっちゃん、伊達市が千葉県白井市と友好交流協定を締結した際に贈られた、伊達市ゆかりのキャラクターです。

伊達市市民活動支援センター NEWS



2024 春号

2024(令和6)年 3月発行 vol.58
企画・編集
伊達市市民活動支援センター
〒960-0756
福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsu-pport.jp
http://www.date-civilsupport.jp/

市民活動 いろは 教えて!だてっちゃん

Q. 任意団体として活動を始めたいです。何が必要ですか?

A.届出などの手続きはありません。が、運営のルールは決めておいた方が良いでしょう。

任意団体の設立に、官公庁での手続きや書類の提出は必要ありません。同じ目的を持った人が集まり、団体として活動する意志を持てば、いつでも自由に設立できます。継続的に活動していくために、団体として何を目指し(ビジョン)、そのために何をしていくのか(ミッション)メンバーでよく話し合っておきましょう。

「やりたい」という気持ちだけで始められる任意団体は、設立のハードルが低く、自由度が高い一方で、法律に基づき設立された団体(法人格のある団体)と比較して、社会的な信用を得にくいというデメリットもあります。組織体としてしっかりとしたものにするために、次のようなものを用意すると良いでしょう。

- ◆ 会則(規約/規則): 組織内部のルールをまとめたもの
- ◆ 会員と役員の名簿: 氏名、役職、住所などのリスト
- ◆ 事業計画と予算: 1年間の活動と収支の計画書

このうち、団体の要となるのは会則です。活動の目的や内容はもちろん、会員の種別と役割分担、会議の開催方や物事の決め方、会計と監査についてなど、団体運営の基本的な事柄についてルールを決めておくと、設立後の安定した活動につながります。

こうした書類は、公共施設等の利用団体登録や、助成金の申請などに際し求められることも多く、用途は多岐にわたります。作っておいて損はありません。



QRコードから支援センターHP内の紹介ページにアクセスできます。

NPO法人夢ネットワーク
伊達市保原町上保原字細田入10番地の1

だてな活動

始まりは“ゆめポケット”

2001(平成13)年、読み聞かせ活動をベースとする任意団体“グループゆめポケット”が誕生しました。旧保原町で、お話会の開催や図書館のお手伝い等をボランティアで行っていましたが、より地域に根ざした読書推進活動を息長く展開していくため、法人格取得を決意しました。NPO法人夢ネットワークの設立は2004(平成16)年のことです。法人化したことにより、年間の予算を立て、事業を計画的に実施する体制



組んでこれたのも、そのおかげであると思っています。

が整い、活動の充実がはかられました。お話会はもちろん、絵本作家・梅田俊作先生の手づくり絵本教室や、落語・漫才とのコラボ企画など、今に続く活動に取り

“夢ネットワーク”のこれから

昨今、折に触れて法人の解散について話し合うようになりました。「法人格を必要とされる活動はやり切った!」という達成感が得られるとともに、メンバーを取り巻く環境も変化してきました。今の私たちにあった活動に、より自由に、多様にシフトしていきたいという気持ちもあるのです。組織の種類が変わっても、やりたいこと、できることは多々あると考えています。他方、長年の活動期間を経て、後に続く人に巡り合えていないことは、法人として残念でもあります。思いを継いでくださる方がいたら、ぜひ託したい。お声がけください。(024-574-2300 法人事務所)





糠田ポッチャクラブ

伊達市月舘町糠田

だてな活動

ポッチャの魅力

糠田ポッチャクラブは2021（令和3）年に発足しました。現在、会員は11名です。月1回、第2木曜日の夜7～9時に練習とゲームを楽しみます。一昨年は、地域自治組織と連携して「糠田地区ポッチャ大会」を開催するようになりました。糠田地域振興会が主催して、クラブの会員が審判を務めます。今年2月の大会では、幼児から80歳代までの約40名が参加して腕を競いました。年代や性別、身体や精神、知的な状態の相違を問わず、誰もが一緒に競い合うことのできるポッチャ。その魅力が十分に発揮され、とても良



2024年1月
“きてみ～な” 交流スペース ポッチャ体験

い大会になりました。

タテとヨコの交流

誰でも始められるけれど、競技としての奥は深く、思った以上に難しい。そんなポッチャの魅力を伝えてく、糠田地区のサロンや元気づくり会はもちろん、月舘町内に出向いて体験の機会を設けています。ポッチャの楽しさをできるだけ広めたいのです。昨年、糠田地区に旧小手小学校簡易宿泊所“おての里 きてみ～な”がオープンしました。1階には、訪れる人が自由に使うことのできる交流スペースがあります。ポッチャと“きてみ～な”。糠田地区の内外で、人と人との交流をタテに、ヨコに図っていくうえで大変良い組合せではないでしょうか。関心を持たれた方は、糠田ポッチャクラブにご連絡ください。お待ちしております。（090-4550-6749 矢舘）



“おての里 きてみ～な”



だてな活動

おしゃれな公民館

2022（令和4）年、リノコトコバコはライフスタイル提案型のリノベーションのお店としてオープンしました。当初は、家と暮らしをデザインし、提案する“新しい形のハウスメーカー”の気構えでいましたが、事業展開を模索するにつけ、求められているのは“カッコよさ”だけではないのでは…?と考えるようになりました。地域に住まう皆さんは、日々の暮らしの中で何を大切にしているのか。何が楽しみで、何をしたいのか。会社は何が提供できるのか。皆さんにお店に来てもらい、使ってもらい、コミュニティベースで交流を図っていきたく考えました。たとえば言うならば、“おしゃれな公民館”への方針転換です。

つながりがつながりを呼ぶ

コミュニティスペースとして貸し出すようになり、イベントやワークショップで様々な人が店を訪れるよ

コボックス株式会社 リノコトコバコ

福島県伊達市広前12-1



2階 COBACO2

1階 COBACO1

うになりました。個人の方ももちろん、移住・定住や女性の起業を支援する団体さんなど、つながりがつながりを呼ぶ展開で驚いています。いつからか、高校生も自主勉強で立ち寄ってくれるようになり、学校の授業とのコラボにつながりました。2024（令和6）年2月に高校生ビジネスコンテストを開催。12人の生徒さんがお店の活用案を発表してくれて、3月には第1位の企画をここで実施することができました。地域の高校に通う生徒さんに、地元で成功体験を持ってもらえたことが大変嬉しいです。就職や進学で離れても、“戻れる場所”として、心のどこかにこの場所があり続けてくれたら幸いに思います。

（024-572-6200

江川・幾世橋）



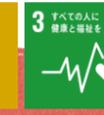
学生が大きな志を抱き
ビジネスコンテスト2024



実行委員会オリジナルスイーツ

りょうぜんマルシェ 実行委員会

伊達市霊山町



だてな活動

地域にねざして続けたい

りょうぜんマルシェの始まりは、2013（平成25）年から5年間開催された“かけだマルシェ”（伊達市“だてマルシェ”の一環）です。当時のメンバーが、地域に根ざしたものとして継続したいという思いで一致。実行委員会形式で活動を続けることとして、2019（平成31）年にスタートしました。コロナ禍のもと、大規模なイベント開催が難しい時期もありましたが、毎年3月、第1週の週末にマルシェを開催するパターンが確立されつつあります。今年、委員7名に40名近くのボランティアが



2024年3月
りょうぜんマルシェ

サポートに加わって、約1,000人のお客さまをお迎えすることができました。マルシェには農産物やお弁当・お菓子、手工芸品など、

地元の皆さんが手がけた自慢の品々が並びます。実行委員からも、いちごなど、地域の特産を取り入れたスイーツを開発、出品して好評いただいています。

自分たちの楽しみ、集まる人の喜び

2022（令和4）年からは、子ども食堂“おいでよ！”も毎月開催するようになりました。マルシェの経験や培われてきた人的ネットワーク、メンバーのフットワークの良さなどが、子ども食堂の運営に活かされています。マルシェも、子ども食堂も、地域につながりや居場所を生み、私たち自身が楽しみながら集まる皆さんにも喜んでいただける活動。最近、町外からのお客さんやコラボも増えて、これからの広がりがますます楽しみです。皆さんもぜひ、霊山の地にお出でください。（090-8788-9234 佐々木）



2023年11月子ども食堂“おいでよ”



山舟生地区
・人口：583人
・世帯数：248世帯
（2024年2月末現在）

山舟生自治振興会

伊達市梁川町山舟生字坊前18
（山舟生地区交流館）



だてな活動

水害とコロナ禍

2019（令和元）年10月、台風19号による大雨の影響で山舟生川が氾濫し、地区に甚大な被害をもたらしました。復旧もままならない翌2020（令和2）年からは、新型コロナウイルス感染症の流行が始まります。以前から少子高齢化の進行が深刻化していたところ、地域の活動や祭礼行事は軒並み中止を余儀なくされて、住民の間に閉塞感が漂いました。

郷土芸能と私たち

2023（令和5）年、コロナ禍を経て日常が取り戻されつつある中、山舟生自治振興会は地区に伝

わる郷土芸能の保存事業に着手しました。映像記録の作成による伝統の継承、後継者の育成が主な内容です。先人の暮らしや習慣、信仰と結びつき、地区に受け継がれてきた郷土芸能に取り組むことが、私たちが元気づけてくれるのではないかと考えました。同年12月に「山舟生万歳」「除石観音様獅子舞」「西部笠踊り」「羽山太鼓」を無事収録。出演者は皆、披露の機会を喜び、当日まで練習を重ね、撮影ではベストの演技を見せてくれました。仕上がりを心待ちにしてくれています。作品になったら披露会で楽しむ予定です。（024-577-5489 事務局）



山舟生万歳



除石観音様獅子舞



西部笠踊り



羽山太鼓